

『能・リア王』再々々演 (2010. 12. 23、紀尾井小ホール) 感想 Comments on Noh: King Lear (23, Dec. 2010, Kioi Hall)

・「能・リア王」を拝見することができました。ありがとうございました。上田先生のごあいさつがとても良かったです。「NOH ADAPTATION OF SHAKESPEARE」を購入しました。ハムレットを舞っていらっしゃる先生の写真がありました。勿論、足立さんのご本も。お友達も喜んでいました。良かったです。最前列だったせいか、少し疲れしました。次回は全体を見渡せる後ろの方の席で鑑賞したいと思います。 青木洋子 (美術家、静岡県)

・静岡での『能ハムレット』初演から『能リア王』まですべてを拝見し、一貫して賞讃してきた一人として、英語能家元に最大の敬意を表します。 荒井良雄 (駒沢大学名誉教授)

・「能・リア王」たいへん興味ぶかく、また有意義なひとときを過ごさせていただきました。素朴な一感想にすぎませんが、雑文を添付いたします。ご一読たまわれば幸いです。

梅宮創造 (早稲田大学教授) (註: エッセイ・ページ参照)

・この舞台の中で特に興味を持ったのは、最初に述べられている薬草による憎悪の浄化と、透き通るような結末である。この舞台の始まりのコーディーリアの、大地と薬草に訴えかけるセリフには、『能: リア王』の精髓を見出すことができる。 遠藤花子 (実践女子大学助教) (註: エッセイ・ページ参照)

・シテの足立様が素晴らしかったです。この世のものでない物を演じるとはどういうことか、私には全くわかりませんが、観客として感じる事はできました。後半(後場)、これが幽玄なのでしょうか。公演後、しばらくボーっとして、うつつに帰って来ることができませんでした。リア王とコーディーリアの世界を体感することができてこの世の幸せを感じることができた瞬間でした。上田先生のおっしゃられる「悟り」を感じることができたのでしょうか。前半が少し説明っぽくなるのは、3・4時間を要するシェイクスピアと能の融合ということにおいて仕方の無いことでしょうか?それとも、お能の展開なのでしょうか?もっと深く勉強いたします。楽器の演奏が素晴らしかったです。謡も聴きごたえがありました。バランスがとても良かった。狂言は、小浜→オバマ→平和→武器→核兵器→核保有→威嚇……。色々な事を考えさせられました。演者の声が素晴らしかったです。解説は、先生のお人柄がにじみ出て、とてもわかり易く楽しい解説でした。解説をお聴きして、母が「先生のファンになった」と。観客の紙をめくる音が気になりました。冊子にした方が音が出ないかと思います。お金はかかりますが。失礼な事もたくさん書いてしまい

ました。先生にお会いできて、「能」と「シェークスピア」と「上田能」の世界に足を踏み入れることができ感謝しております。 **大山敦彦（会社員、静岡県）**

・『能・リア王』を鑑賞することができました。有り難うございました。上田先生の人への思いをよく感じました。私はこの二年間、仕事上様々なことがあり、思うような研究ができませんでした。なんとか細々と言う形では続けてはいましたが、心は満たされないような状態でした。一昨年の再々演の折りはぜひにと思っていましたが、なかなかまなりません。今回やっと『能・リア王』を観れて充実した気持ちになれたことに感謝しております。「美しいコーディリア」。先生の「心と言葉と行動」を足立先生は表現なさっていたと思います。久しぶりに心豊かな時間を過ごさせて頂きました。今年は新しい出発の準備期間の年となりそうです。様々なことをしたいと考えていますが、一番は研究活動です。「生涯研究」を座右の銘として歩みたいと思います。最近芭蕉関係の本を読むことが多くなりました。俳句は独立した文芸と思いますが、改めて文章（地の文）と俳句の関係の深さを感じております。芭蕉の『奥の細道』の形態は今日の散文の中に引用されている俳句のありかたに繋がっているように思います。とくにコラムの中の俳句の引用は絶妙なものが多いと以前から思っています。散文で言い表せない表現を俳句で表していることが多いのではないかと。「思いは言葉に出来ない」ことはよくあることです。俳句は言葉に出来ないことを、言葉にする機能を持っていると思います。その機能とは何か。今そのことを学問的に研究したいと思っています。 **木佐貫 洋（大阪電気通信大学付属高校）**

・解説の時に話された内容は分かり易くユーモアもあって、観客からの笑い声も何度も聞かれました。堂々として、さすがと言う感じです。狂言は内容が理解しやすく面白いので好きです。侍の役と昆布売りのやりとりにふさわしい配役でした。今回初めて一能・リア王を見させていただきましたが、一言で表現すればこのシナリオの中に溶け込んで楽しめたと言えます。ちゃんと予習をして行ったので、よく分かりました。演技については私は何も分かりませんが、どちらかと言うと、ツレのリア王の方から実感が伝わって来ました。地謡や太鼓などの方々がこのシナリオを大きく支えている感じがしました。何と云うか、話の流れに活気を与えていると。私の友達は古典能より楽しめたと喜んでいました。私が気に入ったのは、狂言間語の言葉です。「この世は二つ、・・・」人間の生き方を考えさせられます。これだけの脚本を書かれる、すごいですね。色々感心することばかりでした。ホールからは日没時の富士山がよく見えました。感激でした。 **木下恵美子（フランス語通訳・翻訳、東京都）**

・能楽という新しい世界を体験させていただき、誠にありがとうございました。お蔭様で、抵抗感を感ずることなく、完成された舞台芸術を味わうことができました。シェークスピア

アの『リア王』が怒りと狂乱のドラマだったのに対し、『能リア王』は、鎮魂と救済の頌歌になっていました。能という形式に乗せることによって、リア王が異なる新たな芸術作品になったと感じました。 **今野秀洋（三菱商事取締役）**

・12月23日はありがとうございました。最後のところは涙なしにはおられませんでした。リア王の最後の言葉を、神奈川大学で、友人のゼミ合宿で二度も読まされた。彼は英語を、私は訳を、いや二回目は英語と訳の両方を、学生を前にして。突然の指名で、2007年と8年。そして彼は2009年の2月15日に旅立っていった。22年間で678通の手紙のやりとりのあった友人で、リア王の最後の言葉を読み終えたときは、私の目には涙が浮かんでいた。今度のリアの能の最後は原作にはないが、あのやりきれない心をしずめるには最適の場。愛する娘と共に「真実の国」へいく。涙ながらに心やすめられ、これこそまさに芸術のカタルシス。イギリスでは『リア王』あるのに演じられなかった時期があるという。あまりにも残酷で、この魂の世界を演じられたのは、お能だからか。「悟りの芸術」「涙のカタルシス」永遠に忘れえぬ場となりました。そうさそうさ、できるものならそんな心境で旅立ちたいものだとしました。一年半前の8月2日、交通事故で臨死体験をした私。以来とくにいつ死んでもいい心の準備をと思うようになりました。

・いまキャサリン・レインの最後の詩集を訳しています。これもそうさそうさという思いでいっぱいです。あと20頁3月中に終わりたいのですが、2月28日、熱海起雲閣での第40回逍遙忌記念祭にはぜひ出席したい。いろいろありがとうございました。 **佐藤健治（英米詩翻訳家、静岡県）**

・家族3人で15000円は少々きつかったですが、十分それだけの価値のある素晴らしいライブ(?)でした。娘も大喜びで、中学校での壁画塗りを午前中で中断させて連れて行ってよかったです。また私自身がボーカリストであるためか、特に足立さんの声は素晴らしくて、感動しました。もちろん、リア王、そして狂言も、すべてが一流で、睡魔が忍び寄るような隙は全くありませんでしたよ。これを機会に、今後もお付き合い、よろしくお願ひいたします。私は、文化や伝統を、単なる古きよきものとして保存しようという考え方には共感しません。常に新しい解釈や挑戦によって、しなやかに進化させようとする者がいてこそ、古いものにも価値が生まれ続けるんだと思います。そういう意味で、私は、上田さんの表現に強く惹かれるのです。 **島 昭宏（ロック弁護士、東京都）**

・『能リア王』楽しみにしておりましたが、期待にたがわず、本当に素晴らしかったです。また先生のお話も分かりやすく、ユーモアたっぷり、とてもよかったです。先生があの頃より、お変りないどころか、もっとお元気になられたようにお見受けいたしました。上演が終わってロビーに出た時、広い窓が西に向かってひらいていて、丁度、今、まさに日が沈まんとするところでした。丹沢の方だと思うのですが、真っ赤に燃えていました。右

の方には富士もくっきり見えていて、、、あぁ、手前に見えるビルさえなければ申し分ないのに、とおもいましたが、刻々変化する空や雲の色に暫く見とれていました。コーディーリアに導かれてリア王は、こんな美しい世界に行ったのだろうと思いつつながら。それから先生のいらっしゃった出口の方に向かったのです。帰りに足立禮子先生の御本を買いました。帰りの電車の中で読みながら、もうすっかり先生のファンになりました。上田先生から前に新聞の切り抜きなどを頂きました。あの中に、謡にくい所があって、「そこはそっと流すと、(上田)先生が、そこんところは肝心なところだから、ゆっくり謡ってくれと…」とおっしゃっていて、まるで少女のようにういういしくて、きょうの上演を本当に楽しみにしておりました。聞き慣れない素人の耳には、「そっと流された」のか上田先生のご指示のように謡われたのかよくわかりませんでした。でも終始かわいらしいコーディーリアでした。ずっとずっとお元気で御活躍されますように祈っております。やっぱり日本語の方がよく解ってよかったです。本当にありがとうございました。 **杉本京子 (『元氣宅配ボタン』編集者、ふじみ野市)**

・「能リア」公演は、能・狂言の妙味をぎゅっと凝縮した空間を満喫しつつ、シェイクスピア戯曲の世界も飛び超えて、新しい世界に連れて行って頂いたようで、伝統文化に触れた重厚感もさることながら、むしろ清々しい爽やかさで以て、古典世界を体験できた貴重な時間でした。すてきな公演を、本当にありがとうございました。 **杉本裕代 (東京都市大学助教)**

・昨年の『リア王』とてもよかったです。ありがとうございました。 **鈴木矜子 (観世流能楽師)**

・いつもお健やかにご活躍のことおよろこびを申し上げます。この度の『リア王：能オペラ』は、ご企画から演出、そして出演の方々のご対応、心から楽しみ、またいつまでも心に残る能オペラでした。本当に有難うございました。 **瀬在幸安 (日本大学元総長、医学博士、国際融合文化学会名誉会長)**

・23日の『能：リア王』は、大変、心に残る演能でした。観能記を書いてみましたので、添付ファイルで送付いたします。 **平 辰彦 (文学博士「シェイクスピア劇の亡霊研究」)** (注：エッセイ・ページ参照)

・「能・リア王」を拝見させていただき、ありがとうございました。わたくしなりにいろいろと考えるところがありましたので、感想としてまとめさせていただきます。まず、この作品の眼目は、普通ならリア王を中心に構想するはずのところを、コーディーリアに一曲の中心をおき、リア王の悲劇的な死と、それを嘆く悲嘆一色のムードの中でドラマを終わらせる代わりに、リア王の魂の浄化と至福を、二人の相舞という形式において舞台に現前させ、観客の心を癒す運びに作り替えたところにあると思います。舞囃子の中でシテと

ツレとがぴったりとリズムを合わせる足拍子がまことに心地よく、印象的でした。地謡と地頭の活躍、太鼓の絶妙な間の取り方、囃子の合奏のクレッシェンド、などなど一連の音楽的な流れと、シテの柔らかな舞姿とが見事なハーモニーを醸し出していました。理屈とかイマジネーションとかではなく、現実に関客を揺さぶる力が能にはある、ということ、どなたも感じ取られたことと思います。無論これは、現実の舞台公演ならではの視覚と聴覚との相乗効果です。間狂言のからりとしたセリフも印象的でした。人間の世界を一刀両断、ずばりと二分法で表現する道化の面目が躍如としていました。一曲全体にピリッとワサビの利いた瞬間でした。足立禮子さんの『NOと言わない生き方』を帰りの列車の中で読み始め、止まらなくなりました。翌日もずっと読み続け、ついに読了しました。能の世界の深みをわかりやすい言葉でまさにお人柄そのままに、きちんと意地を通して表現されており、引用されていた世阿弥のことばとともに心に沁みました。このように貴重な体験をさせていただき、感謝です。ありがとうございました。

西澤康夫（岐阜大学名

誉教授）

・今回の舞台装置は華道の美意識を取り入れたようである。そのセットで華やかな装束を身に纏ったシテとツレの舞いはそれだけで幽玄を思わせる。この作品はグローバリゼーションによってますます盛んになっているインターカルチュラル・シアターの一つの形態である。1980年代から能とシェークスピア戯曲の融合にご尽力された上田教授は五幕構成の悲劇を大胆にカットし、複式能に仕立てている。焦点はリア王（ツレ）と三女コーディーリア（シテ）の関係に絞られ、それを通して、心と言葉と行動との和が具現化され、二人は救済へと導かれる。フィナーレでは死後の精神世界が豊かに湧き溢れる。

ボイド真理（上智大学教授）（註：エッセイ・ページ参照）

・コーディーリアを中心に作品の後半に光をあてて見事に美しい能楽の世界を創作なされたこと、心から敬意を表します。足立禮子様舞（特に後半）はほんとうに美しく、コーディーリアの美しさ、愛らしさ、そして勿論、とてつもない強さをひしひしと感じました。御高齢の女の方がこんなに美しく、しっかり舞うことがおできになるとは驚きでした。演劇としてとても興味をひかれ、すばらしいと思ったことが2つあります。1つはすでに息を引きとってしまったコーディーリアをリア王がかかえて登場するところで、現実の人間ではなく唐織の衣（きれいにたたまれた）をリアが抱えていたことです。なるほどと感心いたしました。もう1つはそのすぐあとリアが息絶えるところでの、静かな太鼓のトントンという演奏、あの効果はお見事と思いました。（『忠臣蔵』で大石内蔵助の到着を待つ間、シーンと静まりかえった劇場の舞台上「内蔵助はまだ参らぬか」とくりかえされる間、三味線がボロンと弾かれる——あの場の三味線の効果はすばらしいと思うのですが、それにも通じる緊迫感というか、1つの大きな時代が去ったことを告げる効果としてすばらしい

としました。)中心がコーディーリアに置かれたことで、姉娘の意地悪さや悪意に対するコーディーリアのすばらしさが消えてしまったのはやはり少々残念で、その暗の部分の上に出てくるコーディーリアのすばらしさをどうしたら出せたのかなーと考えました。また Lear のコスチューム(かぶりもの)はちょっとびっくりしましたが、老王という感じ、娘に裏切られた国王のあわれさなど、あるいは彼らの道徳的欠陥などがどうしたらだせたかも少し気になりました。でもとにかく、異文化の世界の作品をああした美しい形で仕立てあげなされたことは、大変なことだったろうと感心いたしました。 **前川正子(津田塾大学名誉教授)**

・注目されたのは今回は、大鼓に国際的に大活躍中の大倉正之助師が出演。現役女性能楽師では最長老といえる85歳の足立師はこれまで以上に甘くとろけるような声で謡った。「わが唇に靈氣宿り、この接吻(くちづけ)が、父上の無残なる傷を癒しませ」という「古典能では考えられない詞章に最初は抵抗を感じた」という足立師だが、今回は、「特にこの部分は女性の美しい声を発揮することを試みた」とも。「天皇誕生日にあたり、皇太子時代の20年間の家庭教師、英国人 R.H.ブライズ教授が絶対平和主義者であったことを、皆さんにお伝えしたかった。その先生の影響で、私の『シェイクスピア能』が生まれた」とは上田教授の言葉。 **宮西ナオ子(女性能楽研究家、『能楽と女性』著者)**

・映像では何度か見たことがありましたが、能の舞台を実際に見たのは今回が初めてで一緒に行った妻はもちろん、私にも新たな経験でたいへん勉強になりました。今まで能とは、古典芸能で退屈だという言葉をよく耳にしました。しかし、今回私が拝見した舞台はいろいろ考えさせるところが多く、退屈というより私が受けた印象は、慎重であり、また真剣でした。私の読み過ぎかも知れませんが、「言葉のむなしさ」から生じる「心の世界(見えない世界)」と「言葉の世界(見える世界)」の対立がとても根本的な問題を浮かべさせました。私自身も留学生であるためか、何度も自分の心がうまく伝えられない時があります。「最善を願ひて最悪を招きたる」ことも時にはありました。正直にいえば私の勉強不足でしょうが、何年日本語を勉強しても自分の心を言葉で完全に表現することはなかなか難しいことだと思います。これは、今回の舞台を鑑賞することにも通じるのではないのでしょうか。私は文字として記された台本を通して理解しました。今まで学校で学んだ能もそうです。台本だけで能を理解しようとしていました。しかし、実際に能を見るということで「言葉の世界」を離れ「心の世界」に少しは近づいたような気がします。一回みただけではなんともいえませんが、今度の経験を生かしてこれからたくさんの方の能を見てその心を学びたいと思いました。思いつくままに書き散らして、失礼いたしました。筑波にて、**柳 政勲(筑波大学大学院生、韓国留学生)**

・『能：リア王』大変素晴らしく、美しく、なんと言葉で言い表したらいいか分かりませ

ん。とても感動いたしました。同行した方々も皆さん、上田先生の日英両語のユーモラスなお話をはじめ、公演内容のすばらしさ、すべてのレベルの高さに感銘しておられました。私自身も、1980年代の、静岡や磐田での『英語能：ハムレット』の頃からたびたび見せていただき、回を追うてますます理解が深まってまいりました。いつも先生が解説で言われるとおり、能は単にストーリーや雰囲気ではなく、お謡いの一つ一つの言葉の美しさや含蓄を考えないと、本当の鑑賞はできないのですね。「長生きすれば人生の妙味が次第にわかってくる」と『能：リア王』にありましたが、まさにそのとおりと実感するこの頃です。健康で長生きしたいですね。足立先生のご著書『NOと言わない生き方』にも深く感動いたしました。85歳というご高齢で、しかもなお現役で、あれだけ見事なお舞台をつとめられ、すばらしいですね。そしてご本の最後には、「もうひとつの夢は、戦争の犠牲になった悲劇の女性たちの霊を癒すことができるような能を創りたい」「第二次大戦の末期に非業の死を遂げた若き女性たち、沖縄島のひめゆり部隊の少女たちを弔いたいという想いがいつも胸の底に沈潜しているのです」「できれば、彼女たちを合祀した、ひめゆりの塔の建つ糸満市で演じられたら、という思いがあります」とあって、またまた深く感動いたしました。その日の来ることを、心よりご祈念申し上げます。 **吉永洋子（静岡県）**

・今回の「能リア王」を拝見して、新たに気が付いた事がありました。おかげさまで、私のアニメーション研究が転換期を迎えることができるのではないかと思えるほどです。それは、「古来より観客は、日本の伝統芸能の能を、アニメーションとして、観ていたのではないか」という点にあります。（もちろん昔の人々はアニメーションという言葉は知りませんが）。「能リア王」は、日本の伝統芸能であり、仮面劇でもあります。つまり、今回、「仮面劇と、アニメーションの関係は密接につながっている」という事が、実感できました。これまで、加藤周一が、仮面劇とアニメーションとに関係があると言っていましたが、あまり多くを語っていませんでしたので、私にはよく判りませんでした。「能リア王」を観て、改めて、劇の中にアニメーションと重なる部分を見つけることができたのです。例えば、能舞台に立ち尽くして、静止しているリア王が、突然動き始めたとき、そこにアニメーションを感じました。リア王は、能面と毛の長い鬘をつけ、能衣装を着ているため、人の肌も、人の生身の部分が見えません。ですから、まるで人形のごとく、あの世の者に見えました。それは、まるで人でない物質（無生物）が動く事によってアニメーション化しているように、見えたのでしょうか。事実、マネキン人形にリア王の能面や鬘をつけ、能衣装を着せたとすれば、同じ能面、鬘、衣装である能役者が静止している限り、見分けがつかないでしょう。したがって、リア王は、人間に見えない、あの世の者に見えてくるのでしょうか。能は、日本のアニメーションのルーツにつながっているのではないかと思います。能とアニメーションの研究をさらに進めたいと思っております。 **渡部英雄（湘南**

工科大学講師)

・ Noh "King Lear" was a great performance. For me the speech given by Professor Ueda was the key to understanding and thinking about the performance. Namely, the idea of an old man who realizes too late that he has made a mistake that has cost his daughter's life, and who himself has to die right after. When I was watching the Noh performance I could feel the emotions of a dying man regretting his ignorance.

Thank you for the wonderful experience! **Maria Eruwarudo** ・「能リア」は秀逸な公演でした。私にとって、上田先生のお話を伺ったことが、この舞台をより深く感じ取り、理解する鍵になったように思います。つまり、ひとりの年老いた男が自分の娘の命という代償を以てやっと、自分が間違っていたことや、それがあまりにも遅すぎたことを悟るにいたり、その直後に死んでしまう。「能リア」を観ながら、死にゆくリアが、自らの無知や愚かしさを深く後悔している様が胸に迫ってきました。素晴らしい経験をありがとうございました。 **マーリア・エルヴァールド (早稲田大学、エストニア留学生)**

・ Dear Kuniyoshi: Congratulations! You are amazing! Thank you for the fascinating material on your "Noh King Lear". The program is well designed with pertinent information for the audience. I will archive this. Incidentally, you gave a stunning Noh performance of "Hamlet" during the Orienting Shakespeare in East Asia conference in Taipei in December, 2010, with such verve, calamity, and command of all of the verbal and nonverbal languages on stage. The performance greatly enriched the conference delegates' experience of Shakespeare and Japanese culture. Hope the new year bring even more success! best, **Alexander Huang, Professor, Pennsylvania State U.**

・おめでとうございます。すばらしいことをやられましたね。『能リア王』についての魅力的な資料ありがとうございます。プログラムの巧みな構成、観客にとって極めて適切な情報です。私のアーカイヴズに保存させていただきます。ついであるが、2010年12月の台北「東アジア・シェイクスピア会議」での『英語能ハムレット』独演は、言語と非言語を駆使しての気迫溢れる実に美しい公演で、各国代表たちのシェイクスピアおよび日本文化体験を優れて豊かなものにしてくれました。新年、さらなるご成功を期待いたします。 **アレグザンダー・ホアン (ペンシルヴェニア州立大学教授)**